

令和4年5月30日

# 南の風 448

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

447号の続きになります。

威圧感だけで選手を支配しようとするのは、もはやコーチとは呼べません。一方、褒めるだけでは選手のモチベーションは高まりません。

ジョン・ウッデンはコーチの在り方について、「真の指導者は、単に権威のある人物というのではなく、それよりもずっと大きな存在である。指導者とは、人々に意欲を起こさせるために銃を必要としない人のことである。」と言っています。拳銃を突きつけるように、恐怖心や威圧感で選手を動かすのはコーチとは呼べません。選手はコーチへの「尊敬」から、「この人の期待に応えたい」という動機を抱きます。選手からの尊敬を得ることが、チームづくりの第一歩とも言えます。

『尊敬』は捉えどころのないもので、こうすれば尊敬されるという正解がないものです。選手から尊敬を得るには、バスケットボールの知識量や指導テクニックだけではなく、人間としての『魅力』が必要になってきます。理論や指導テクニックでは差がつきにくいからこそ、指導者の人間性で差がつくのではないのでしょうか。答えは出にくいことなのですが、『魅力』とは何か、模索し続けることがコーチには求められている気がします。

選手との関係づくりについて、ジョン・ウッデン氏の考え（育てる技術から）をさらに引用します。「指導者の最も基本的な条件は、自分の指導下にある人たちの尊敬を得ることである。それには、みずからがまず彼らに敬意を示すことだ。あなたはまず、自分の指導下にある人たちは、あなたのために働いているのではなく、あなたといっしょに働いているのだということをしかと肝に銘じておく必要がある。あなたとあなたの部下は、共通の目標によって結ばれているのだ。指導者は、自分の指導下にある人たちに敬意を抱かなくてはならない。敬意とは愛の一種である。指導者が彼らに敬意を抱けば、彼らは指導者から頼まれたことをするものだ」「恐怖心をおおれば、短期的には人びとに何かをやらせることができるかもしれない。しかし、長期的な視点から見ると、人びとにやる気を起こさせるには、誇りを持たせる方がずっと効果的だと私は確信している。そのほうが、ずっと長い期間にわたってはるかによい結果が得られるのだ。誇りを持っている人物か、罰を恐れている人物か、私ならどっちの人物といっしょに仕事をするだろう。私にとってそれは簡単な選択だ。相手に敬意を示してはじめて相手は誇りを持つ。このことを忘れてはいけない」

このようにジョン・ウッデンは、選手たちの「意欲」を引き出すための、最も重要なカギは「尊敬」と「信頼」だと語っています。

もう少し具体的に指導者と選手の関係で見ていきます。私は小学校の教員をしていたので、教員の立場から考えて見ます。

学校で子どもたちが授業を受けるときには、先生の言っていることを全受容するか、疑問を持って部分受容するか、拒絶するか、無視するか千差万別なのです。しかし、教師側が「子どもたちは自分の授業を全受容すべきだ」という指導法を考え始めたらどうなるのでしょうか？ 次号にします。